

令和2年度 磐田市立福田中学校 学校評価書

A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力 D:大いに努力

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
学 ぶ 楽 し さ を 実 感 で き る 生 徒	主体的な学習態度を身につけた生徒の育成を目指し、授業や家庭における学習習慣の定着に努めた。	<p><生徒> 「家庭で課題や自主学習に取り組んでいる」(83%) 「授業の内容がよくわかる」(77%) 「進んで友だちや教師に聞いたり自分で調べたりして学習できる」(79%)</p> <p><保護者> 「子どもは授業の内容がよく分かっている」(73%) 「予習・復習を含め、家庭での学習習慣が身につけている」(59%)</p>	C	<p>○授業での課題に対する関心は高く、質問やつぶやきも多く聞かれる。課題の解決に向けて自主的に資料を集めたり、学習してきたことや他の教科で学んだことを結び付けて考えたりしようとする生徒もいる。探究的な学習にも取り組むことができおり、アドバイスを生かして学びを深めようとする。</p> <p>○学習したことを定着させるための手立て(家庭学習・宿題)の必要性や方法がわからず、習慣としても定着していない。</p> <p>※4月当初の学習のガイダンスやテスト前の学習指導を充実させ、どのように学習すればよいのかの指導を学級活動+教科指導で行う。家庭学習の習慣については、中学生になってからはなかなか定着しないため、学府研修において系統的な指導をしていく必要があり、来年度具体的に進めていきたい。また、懇談会などで話題として取り上げ、家庭とも協力をしてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観からは、落ち着いて学習に臨み、集中して取り組んでいる様子が伺えた。 ・自主性が感じられる授業で、分からないところをかみ砕いて説明し、みんなで考えている学習であった。 ・家庭学習の習慣化については、アンケート結果での生徒と保護者の差が気になる。家庭との連携と認識を深めることが大事。 ・家庭学習の習慣は、中学生になると声をかけても素直に取り組むのが難しくなるため、より自主性が大事になる。達成感を感じられる学びの仕組みを作り、家庭でもその仕組みの中で一緒に取り組みたい。 ・学ぶおもしろさを感じ取らせることが学びの習慣化につながるため、工夫が必要。
自 分 の 良 さ を 伸 ば す 生 徒	自分の良さを見つけ、自ら伸ばそうとする生徒の育成を目指し、生徒主体の取組を意識して行うことで、生徒の活躍の場、成長の場を設定する。さらに行事や学期ごとの振り返りに対して教師だけでなく、生徒間でも互いの良さを認め合える場を設ける。	<p><生徒> 「自分には良いところがある」(73%)</p> <p><保護者> 「学校には自分の子どもが認められている場がある」(91%)</p>	B	<p>○1学期79%→2学期73%と下がっている。本年度は、昨年度末に続き、新年度開始後すぐに休校となった。そのため、1学期に予定していた行事はなくなり、生徒の心のケアを意識しながら個々への声掛けを行った。2学期はできる範囲での行事の実施を心がけたが、大幅な変更が求められる(修学旅行中止・体育大会午前中開催種目の大幅な変更・3年かしわ祭中止など)生徒が主体的に取り組み、練習の中で葛藤する場面が少なく、成長を実感できる場面が少なかったと考えられる。教師も初めてのことで手探りの活動も多く、先が見通しにくかった。</p> <p>○ホームページや学年だよりでの情報発信により、学校での活動について保護者の理解が得られた結果であると考え。</p> <p>※行事の実行委員会組織や学級組織において、課題やテーマに対して意見を吸い上げ決定していく生徒主体の活動を行ってきた。来年度も、多くの生徒に活躍の場があり、挑戦できる雰囲気づくりに力をいれていく。また、2学期の希望制教育相談を充実させ、生徒の不安や悩みに耳を傾け、寄り添い支援して行きたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はさまざまな体験や活躍の場が大幅に減少し、生徒にとっては気の毒ではしたが、創意工夫を凝らした取り組みを行っていると感じる。今後もこのような状況下だが、思い出に残る行事や取組をお願いしたい。 ・新しい取組のための話し合いを大切に、仲間や自分のよさに気付ける活動にしたい。 ・思春期の子どもたちが自分の良いところを見つけることができるのは、容易ではないため、73%の肯定的な意見はかなり高い結果だと思う。 ・うまく褒めることが大事であり、その場を設定することが求められる。 ・H23から取り組んでいる自尊感情やボイスシャワーは、保護者としても意識している。一定の成果を実感している。 ・あいさつ運動での教師や保護者からの声掛けは、短い時間だが生徒が見守られている実感を感じることができたと思う。毎日のちよつとした声かけを大切にしていって欲しい。 ・学校行事や委員会など準備・企画の段階で生徒に委ねることができる部分は可能な限りまかせ、多くの生徒に達成感・充実感を感じ取らせたい。
互 い に 高 め 合 う た め に 規 範 意 識 を も つ 生 徒	互いに高め合うために、一人一人が規範意識をもつ生徒の育成を目指し、生徒会(委員会)を中心とした啓発活動を実践する。	<p><生徒> 「学級・学校には互いにルールを守り、協力する雰囲気がある」(82%)</p> <p><保護者> 「子どもの生活する学級・学校には、互いにルールを守り、協力する雰囲気がある」(91%)</p>	B	<p>○委員会が中心となり、黙想時の姿勢の提示や下校時の交通マナーの呼びかけ、点検活動など、よりよい学校にしていくための企画を提案し、実践した。</p> <p>○生徒会の企画による清掃ボランティアやあいさつ運動、後期からはセルフスタディー(自学の仕方を交流する活動)などを実施し、規範意識だけでなく、互いに高め合う活動も取り入れた。</p> <p>※生徒主体の啓発活動のための細かな支援(雰囲気づくり、進め方の指導など)を丁寧に行い効果的な活動となるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の掲示物から、着実な自主活動が見て取れ、良い雰囲気にあることが感じられた。 ・押し付けでなく、生徒自身による自発的な課題発見、解決方法の提案、改善へとつなげていく活動が重要。 ・級友や友達に関心を持ち、よりよい関係を築きたいという思いが大事。 ・小学校の参観会で、中学生が学校生活を紹介している動画を見た。良い取組だと感じた。 ・よりよい学校にするための活動が生徒主体で発せられている雰囲気が良いと思う。

<p>命を大切に し、健康づくりに努める生徒</p>	<p>正しい判断力をもち、主体的に心身の健康づくりに努める生徒の育成を目指し、「健康の日」の指導の充実を図る。</p>	<p><生徒> 「健康10か条を守って生活できている」(93%)</p>	<p>B</p> <p>○「健康の日」の指導は、生徒の実態を把握し、タイムリーな内容を取り入れ実践した。本年度は、学府における不適応生徒の実態を共有し、「レジリエンス(折れない心)」についての研修を教員全体で行った。また、生徒にも「健康の日」と学級活動で合わせて実施。心と体の健康の両面での指導を計画的に進めることができた。</p> <p>○交通マナーが課題であるため、本年度は「交通マナーを守り、登下校できている」という評価項目をプラスした。結果は94%と高い結果であったが、実際は交通マナーに関する苦情が多く、生徒の意識と実情の違いが大きい。</p> <p>※命を守るという視点から、交通マナーについての指導が必要である。そのため、交通安全教室での指導だけでなく、安全委員会を中心に、客観的に自分たちの下校の様子を観察し、考える時間を設けていく予定である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の問題は専門家であるカウンセラーなどとの連携を図り、市や県全体で取り組む必要があると感じる。 ・タブレットや書籍などさまざまなツールを使って子どもの心を揺さぶる指導を期待したい。 ・レジリエンスについての取組は必要だと思う。良い結果が出ることに期待する。 ・挫折や失敗から立ち直る力を誰もが持っていることを理解し、つらい時は支え合って生きていくという心が育つとよい。 ・本年度、交通安全については、学校からの依頼を受けて地域が動き、標識の変更などを請願した。地域とともに進めていくのが効果である。 ・地域の交通安全ボランティアの声を生徒に聞いてもらい、いろいろな人との関わりの中で意識を高めたい。 ・交通ルールやマナーは自分の命だけでなく、他人の安全・安心を守ることにもつながっていることに気付かせたい。
--------------------------------	---	--	---	--

学校関係者評価を受けてのまとめ

本年度は学校に足を運んでもらい、生徒の様子を見ていただく機会が少ない中だったが、短い時間の参観でも生徒や学校の様子を感じ取り、前向きな御意見をいただいた。改めて地域の学校に対する熱い思いを実感した。来年度の取組として、以下の内容に取り組んでいく。

学びづくりでは、家庭学習の習慣化が進み、個に応じた学習が進められるよう、取り組み方の指導(支援)を行う。このことにより、基礎学力の定着が図られ、主体的に学びを深める生徒の育成につながる。これらは、学府全体で系統的な指導となるよう取り組んでいく。家庭の意識も高いため、情報を発信し協力を仰ぎながら、一緒に子どもたちを育てていく関係を大事にしたい。学びの土台となる授業づくりでは、課題設定や学び方の工夫(タブレットの活用・効果的な話し合い活動・地域人材の活用など)に取り組むことで、魅力的な授業となるよう研修を進める。

自尊感情を高めることは長い目で見ると不登校生徒や問題行動の減少にもつながる。継続的に取り組んでいるボイスシャワーを浴びせるためには、生徒が生き生きと活動する場・褒め認める場が必要である。そのため、本年度同様に生徒主体の活動を教師が支え、達成感を感じさせるよう取り組んでいく。行事だけでなく、学習や生活面においても生徒からアイデアが出てきているため、「できる」を自信にさせたい。

地域のみなさんからは不登校や交通マナーに関する御意見やアイデアを多くいただいた。不登校については上記にあげた自尊感情とレジリエンスの両面から子どもの心を強くしなやかなものとなるよう取り組む。毎週金曜日の朝の時間を「はまぼうチャレンジタイム」とし、対話・レジリエンス・人間関係づくりの力を養う活動などを計画的に進めていく。交通マナーが長年の課題だが、地域のみなさんに投げかけることで、それぞれの関係組織が協力してくださっていることがわかり、いただいたご意見を職員にも紹介しながら、地域を巻き込んでつながりのある活動にしていきたい。

地域とのつながりとしては、総合的な学習の時間における、「地域学習」「防災教育」に力を入れていく。系統的な学習となるよう小学校と連絡を取り、計画づくりを行っている。実施に当たっては、さまざまな関係機関と連携をとり、専門性の高い学習の機会とする。